## Large-scale Scrumはスクラムである

LeSSは、複数チームのコンテクストにスクラムを適用するためのガイドとルールのセットである。LeSSはチームレベルにスクラムを適用してそれからスケールのプロセスを加えるフレームワークではなく、全レベルにスケールされたスクラムである。

**Scaled Scrumは、"それぞれのチームのスクラム"を含んでスケールした特別なフレームワークではない。**

**Scaled Scrumはスケールしたスクラムである。**

## 新しいスクラム？

LeSSは"新しい改良されたスクラム"ではない。そうではなく、標準的なスクラム、つまり、あらゆる大きさのグループのやり方と仕事を検査し適応できる経験主義のフレームワークである。Large-scale Scrumは、大きな複数チームやマルチサイト、あるいはオフショアのアジャイル開発を先導するのに上手くいくことが分かった追加のルールと秘訣のセットである。これらの秘訣は伝統的なスクラムのコンテクストにおける実験である（原文：These tips are experiments to try in the context of the classic Scrum framework.）。

"Scrum 2.0"とか"Scrum++"、"Scrum#"、"UnifiedScrum"、"OpenScrum"、"標準的なスクラムを置き換える新しく改良されたスクラム"などの言葉は疑うべきだ。それらは実証によるプロセスコントロールとスクラムの効果を欠いている可能性がある。Ken Schwaberは次のように言っている。

スクラムにバージョン2.0はない。なぜか？"開発の特定の問題"を解決するのがスクラムの要点ではないからだ。スクラムは複雑さによって起こる問題を掘り起こし、一つ一つ、繰り返し組織に解決させる。

Lessは（スクラム同様に）組織的な問題を明らかにするシンプルなフレームワークだ。我々は新しいアイデアがフレームワークを改善し得ないと言っているのではない。しかし、"改善"の試みは多くの場合、(1) 標準的なスクラムを本当に適用したとき明らかになる弱みに取り組んでいない、(2) 体制のポリシーや固定化されたグループに合わせられている、(3) 新しい銀の弾丸的なプラクティスまたはツールへの信奉、(4) スクラムと実証によるプロセスコントロールの曖昧な理解、(5) 伝統的コンサルティング会社によるあなたのお金を奪う試み--"アクセンチュア スクラム/アジャイル"、"IBMスクラム/アジャイル"、などである。

Large-scale Scrumは標準的なスクラムと同様、イテレーション毎にチームによって詳細を埋められ発展するフレームワークである。それはカイゼンにおけるlean thinkingの柱を反映している（原文：It reflects the lean thinking pillar of continuous improvement.）。Large-scale Scrumは、最小2チームから500人や1,000人に及ぶたくさんのチームがあるとき、製品とプロセスを検査し適応するための提案の集合である。

LeSSとスクラムは、理解は簡単だが実践は難しいと言われる。それは弱点を明るみに出すからである。大きな組織の小さなグループ（例えば7人）でスクラムを採用する場合、明らかになって取り組むことになる問題は局所的なものかもしれない。しかし、大きなグループ（500人など）がLeSSを採用する場合、組織の構造やプロセス、報酬、人、業務といった面で組織設計におけるシステム上の弱点が浮き彫りになる。その場合、Large-scale Scrumは組織的な変革の圧力となる。この作用は、水位を下げるというリーンにおけるメタファーを反映している--LeSSは岩を見えるようにするフレームワークである。水位を下げるのは簡単で、難しいのは岩を取り除くことである--特にそれが組織のポリシーや構造に食い込んでいるときは。

## スクラムの情報源

スクラムについては次の情報源を推薦する：

* [Scrum Primer—Deemer, Benefield, Larman, Vodde](http://www.scrumprimer.org/)
* [Scrum Guide—Sutherland, Schwaber](http://www.scrumguides.org/)